



ACCELL/SQL からUnifyVISION Release2へのコンバージョン

ACCELL/SQL インストールディレクトリ

/home/ASQL

UnifyVISION Release2インストールディレクトリ

/home/VISION2

1. UnifyVISIONアプリケーションの変換

Step1 UnifyVISIONとDataServer の環境変数の設定

```
PATH=/home/VISION2/bin:$PATH
VISION_HOME=/home/VISION2
GALAXYHOME=/home/VISION2/gui
LANG=japanese
LANG_DIR=jpn_jae
DISPLAY=jupiter
UNIFY=/home/ASQL/lib
CLIENTINFO=/home/DS_DB
DCMFILE=/export/home/ohmura/vdev/tutorial/tutorial.dcm
DBCONN=TUTORIAL._U2K
```

【tutorial.dcmの内容】

```
[TUTORIAL_U2K]
DBTYPE=U2000
DBHOST=jupiter
DBUSER=ohmura
DBPASSWORD=BeEsXRO
DBNAME=file.db
DBPATH=/home/DS_DB
DBSCHEMA=PUBLIC
```

注) これらの設定は、使用する環境により変更する。

注) *.az, *.fzファイルがない場合にはStep1の前に作成しておく。

Step2 makefileの作成と編集

ACCELLアプリケーションのあるディレクトリに移り、acl2uvユーティリティを実行する。

```
$ acl2uv
```

makefileのvcpl部分を以下のように変更する。

【変更前】

```
-vcpl -warm all -log $*.log -script $?
```

【変更後】

```
-vcpl -warm all -log $*.log -script $? -dcmfile $(DCMFILE)
      -dbconn $(DBCONN)
```

Step3 makeの実行

```
$ make -f vision.mak
```

Step4 visionを起動しStep3で作成したアプリケーションを取り込む。

プロファイルのデータベース・プリファレンスを設定して、接続を確認する。



Step5 Step3で作成されたログ(filename.log)を参照して4GLの編集を行う。
以下の変更なしでもアプリケーションのコンパイルは問題なくできるが、将来にわたってUnifyVISIONを使用することを前提に変更すべき箇所を以下に示す。
ここに示したものは、使用頻度が高いと思われるもの。

UnifyVISIONで変更された4GL文(左側:ACCELL 右側:UnifyVISION)

APPLCAITION master_form	FORM CLASS master_form
AFTER APPLICATION	ON DESTROY
BEFORE FORM	ON CREATE
ENABLE ZOOM TO	ENABLE ZOOM TO CHILD FORM form_name OF CLASS form_name
CHOOSE NEXT FORM	ON CHOOSE NEXT FORM
ON PREVIOUS FORM	ON DISMISS FORM

PREVIOUS_FORM DISMISS_FORM

NEXT_FIELD NEXT_FIELD_NAME
CUR_NEXT_FIELD CURRENT_NEXT_FIELD_NAME

UnifyVISIONで追加されたもの

FIELD SECTIONにBEGIN ENDを入れる

UnifyVISIONで削除されたもの

DISPLAY TRIM
REFRESH SCREEN
REQUIRED FORMS

BLINK
LOW_INTENSITY
REVERSE
UNDERLINE

Uni fyVISIONで設定が細かくなったもの

AUTO_COMMITについては、追加・削除・更新などについて別々に指定できるようになった。

```
AUTO_COMMIT          TX_MODE_ADD_RECORD
                     TX_MODE_DELETE_RECORD
                     TX_MODE_UPDATE_RECORD
```

SET COMMANDはなくなり、アトリビュート(属性)で指定するようになった。例えば、

```
SET COMMAND "NEXT_FORM":ACTION TO 'DISABLED'
```

は、以下のように変える必要がある。

```
SET "NEXT_FORM":AUD_ACTION TO 'DISABLED'
```

また、ACTIONについてもAUD_ACTIONとFIND_ACTIONの2つを指定する必要がある。

Uni fyVISIONで条件が厳しくなったもの

FINDなど、QUEUE COMMANDに置き換えが必要なものがある。

```
NEXT ACTION IS      QUEUE COMMAND
```

以上の変更は、acl2uvを実行する前にシェルスクリプトなどで行っても良い。ただし、ログにはACCELLでは未知のキーワードであるとのメッセージが出力される。

NULLの設定は、NULLを指定して関数を使って変換する。例えば、DATEタイプでは、以下のように行く。

```
SET TODAY_DATE TO str_to_date$('**/**/**')
```

は、以下のように変更する。

```
SET TODAY_DATE TO to_date$(NULL)
```

Uni fyVISIONデザイナーで修正が必要なもの

リターンを押しても次フィールドにいかない
各フィールドの“タブストップ”属性をTRUEに設定する。
(フォーム・プロパティパネルのフィールド順で“タブストップ”をクリックする)

マウスでクリックしてフィールド間を移動できない
フォーム属性のフィールド・クリックをTRUEに設定する。
(フォーム・プロパティパネルの対話型操作で“フィールド・クリック”をクリックする)